1803 KC81

AirPRO

レンジフード

取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されているものは、それに基づき電気工事をおこなってください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の２つに区別しています。
  いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
  （分解・修理・改造禁止）
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります
  （使用禁止）
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります
  （埋込禁止）
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがありますアースの取り付けは販売店にご相談ください
  （アースを取り付ける）
- 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
  （取付注意）
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります
  （取付注意）
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
  （取付注意）
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
  （取付注意）
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります
  （取付注意）
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります
  （取付注意）

⚠ 注 意

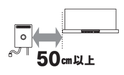
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります
  （使用禁止）
- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります
  （取付禁止）
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります
  （接触禁止）
- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
  （手袋をする）
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります
  （取付注意）
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります
  （取付注意）

取り付け上のお願い

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
・大工工事【設置のための下地工事等】
・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

- ダクトの不燃処理について
  ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 本体やダクトなどが他の電気製品と接触しないように取り付けてください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
  本体の取付用ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
  また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、製品取付高さは、製品前面の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。

- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
  また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 電源コード等の各種コード類は、吊るなどして、レンジフード本体や排気ダクト等に接触しないようにしてください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。
  レンジフードへの通電が遮断されますと、お手入れ時期の表示（お手入れランプ）を正しくお知らせできなくなります。

- **配線工事の際は、必ずアース線を取り付けてください。**
  アース線を取り付けないと、故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

付属品

座付ねじ（φ 5.1 × 45）6 本
本体の取り付けに使います。

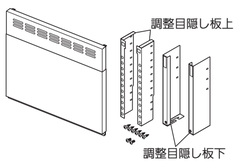
ブッシュ　2 個　※ 600 幅のみ
本体の取り付けに使います。

排気口　1 個
本体とダクトの接続に使います。
逆風防止シャッター付きです。

ソフトテープ　1 本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

アルミテープ　1 本
幕板の固定に使います。

幕板セット　1 組
本体正面の目隠しに使います。
（セット内容）
・幕板 …… 1 枚
・調整目隠し板上（左・右）… 各 1 個
・調整目隠し板下（左・右）… 各 1 個
・取付ねじ（M4 × 10）…… 2 本
・木ねじ（φ 4.1 × 13）…… 6 本



取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
  （分解・修理・改造禁止）
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります
  （埋込禁止）
- 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
  （取付注意）
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります
  （取付注意）
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります
  （取付注意）

⚠ 注 意

- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります
  （取付禁止）
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
  （手袋をする）

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります
  （取付注意）

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

	製品単体質量
600 幅	21.0kg
750 幅	24.5kg
900 幅	26.5kg

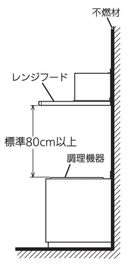
■ 板張りの場合
- 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■ コンクリート、タイル壁の場合
- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

■ 土壁の場合
- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

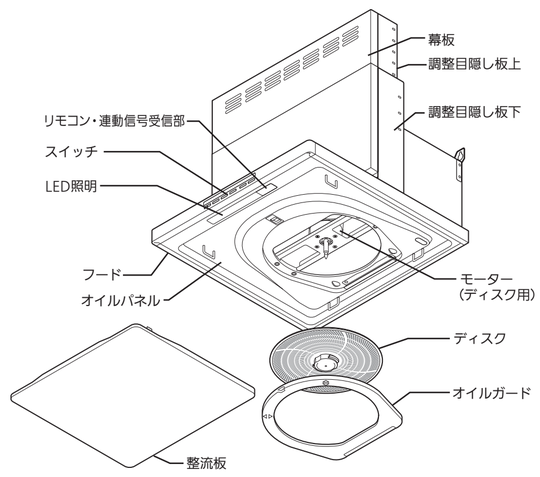
3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品前面の下端まで 80cm 以上です。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

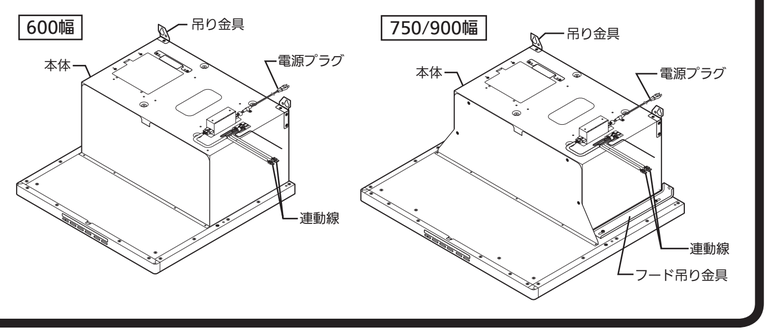


4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願い
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

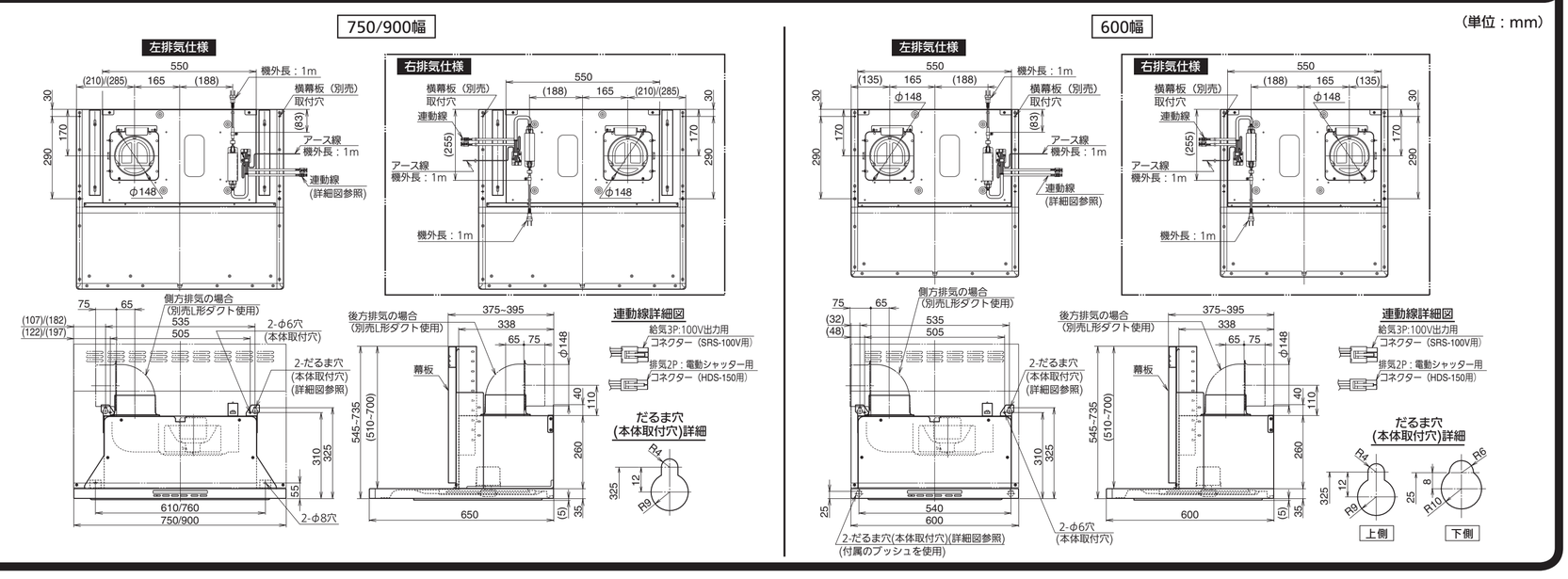
各部のなまえ





製品寸法図

（単位：mm）



取り付けかた

1．付属品の確認

⚠ 注 意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
  （手袋をする）

付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上項左側の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い
・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
・保護用のクッション材と固定テープは「6. 取扱説明書およびオイルガード固定テープの取りはずし」まではずさないでください。
・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

2．排気方向の決定

⚠ 警 告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
  （取付注意）
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります
  （取付注意）
- 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
  （取付注意）

⚠ 注 意

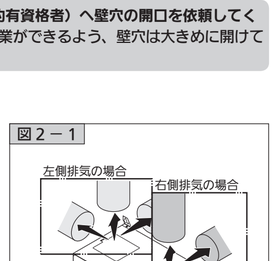
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります
  （使用禁止）
- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります
  （取付禁止）

1 **製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。**（ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。）
また、コンセントの位置を確認してください。

本製品はダクトの排気方向を左側・右側排気それぞれ３方向の中から選べます。（図２－１）

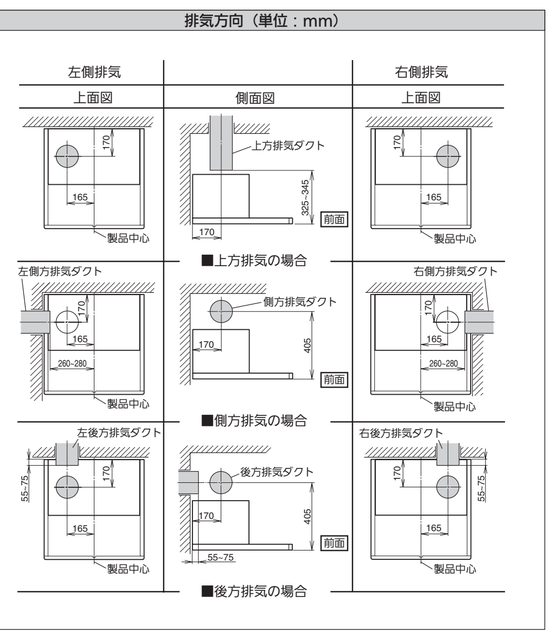
製品には右側排気用・左側排気用の２種類があります。
本説明書は左側排気用の図で説明しています。右側排気用の場合は排気口の位置が逆になりますが、取付方法は同じです。

図２－１



2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトをレンジフードの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げてください。（コンクリート、タイル、土壁の場合）

排気方向（単位：mm）



3．排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

■ 上方排気の場合（図３－１）

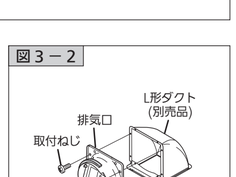
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
本体についているねじ 2 本を取りはずした後、付属品の排気口を取り付けます。
取付方向は右図を参照してください。

図３－１

■ 側方および後方排気の場合（図３－２）
（別売品の L 形ダクトを使用する場合）

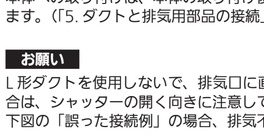
排気口に付属品のソフトテープを貼り、L 形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。
排気口は、L 形ダクトに付属している取付ねじ（M4 × 8）4 本で L 形ダクトに取り付けてください。
本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。（「5. ダクトと排気用部品の接続」参照）

図３－２

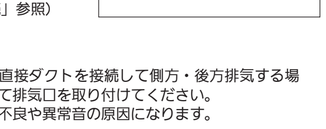


お願い
L 形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。
下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。

正しい接続例



誤った接続例



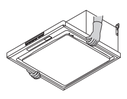
4．本体の取り付け

⚠ 注 意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります
  （取付注意）

- 部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります
  （取付注意）

- 設置の際、整流板を持たないこと
  必ずフード部を持って設置してください
  変形により近接センサー感度が悪くなるおそれがあります
  （取扱注意）



以下は左側排気の場合を示します。右側排気の場合は左右対称としてください。

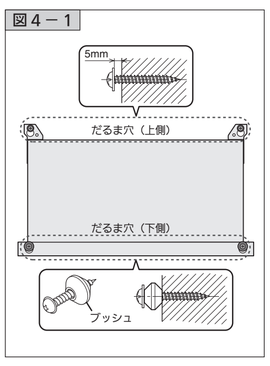
600 幅の場合

1 だるま穴用座付ねじ 4 本を壁面にねじ込みます。（図４－１）

1）製品寸法図を参照し、上側のだるま穴位置（2 ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本をねじ込み、壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。

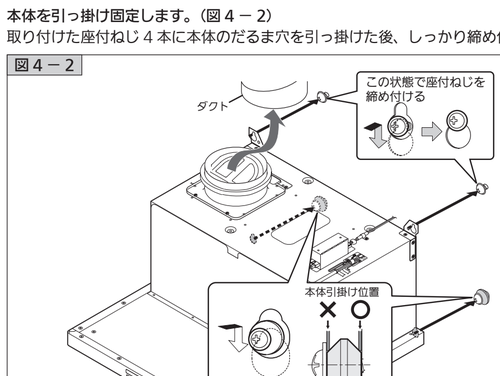
2）座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本にブッシュを取り付け、下側のだるま穴位置（2 ヶ所）にねじ込んでしっかりと締め付けます。
※ブッシュが壁に食い込まない程度に締め付けてください。
ブッシュが壁に食い込んでしまうと本体が取り付かないおそれがあります。

図４－１



2 本体を引っ掛け固定します。（図４－２）
取り付けた座付ねじ 4 本に本体のだるま穴を引っ掛けた後、しっかり締め付けます。

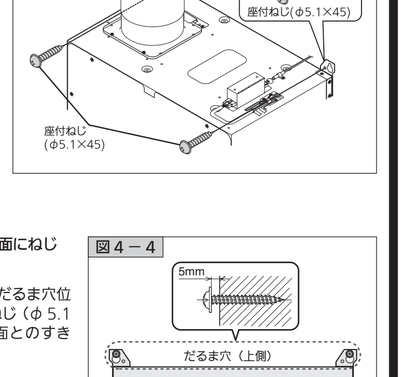
図４－２



お願い
・上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
・本体取り付けの際は、背面下側のだるま穴の切り欠きを必ず正しい位置に引っ掛け固定してください。製品が傾いて取り付けられるおそれがあります。
・取付後、本体が確実に引っ掛けられたことを再度確認してください。

3 本体を固定します。
（図４－３）
吊り金具のだるま穴横にある各穴に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）各 1 本をしっかりと締め付けて固定します。

図４－３

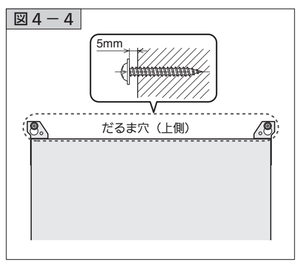


750 および 900 幅の場合

1 だるま穴用座付ねじ 2 本を壁面にねじ込みます。（図４－４）

製品寸法図を参照し、上側のだるま穴位置（2 ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本をねじ込み、壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。

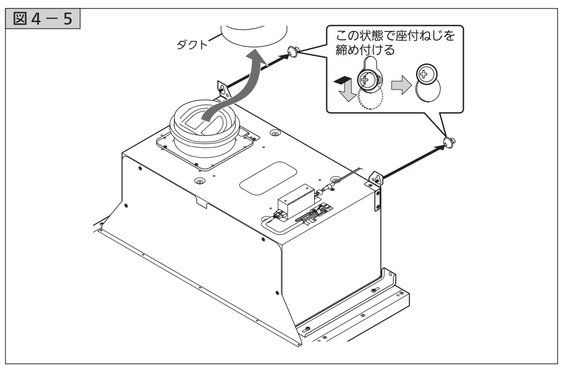
図４－４



2 本体を引っ掛け固定します。（図４－５）
取り付けた座付ねじ 2 本に本体のだるま穴を引っ掛けた後、しっかり締め付けます。

お願い
・上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
・取付後、本体が確実に引っ掛けられたことを再度確認してください。

図４－５

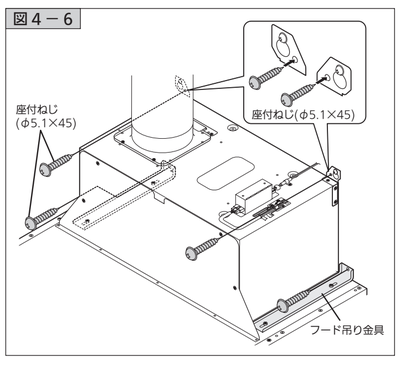


3 本体を固定します。
（図４－６）

1）だるま穴横にある各穴に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）各 1 本をしっかりと締め付けて固定します。

2）フード吊り金具の各穴に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）各 1 本をしっかりと締め付けて固定します。

図４－６



取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた（つづき）

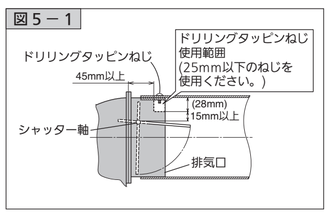
5．ダクトと排気用部品の接続

以下は左側排気の場合を示します。右側排気の場合は左右対称としてください。

お願い

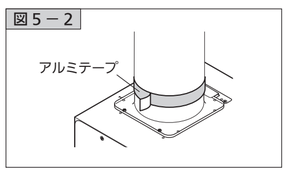
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図 5 － 1）

図 5 － 1



■ 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5 － 2）

図 5 － 2

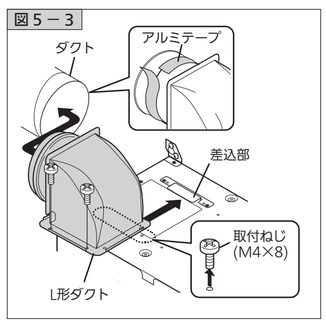


■ 側方排気および後方排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）

1 排気口を取り付けます。（図 5 － 3）
本体排気口取付位置に取り付いている取付ねじ 2 本をはずした後、L 形ダクトを本体上部の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。

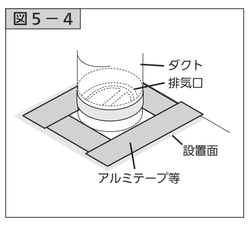
2 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5 － 3）

図 5 － 3



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図 5 － 4）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図 5 － 4



6．取扱説明書およびオイルガード固定テープの取りはずし

■ 保護用クッション材をいったん取りはずし、整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。
■ 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルガードを固定しているテープをはがします。
固定テープをはがした後は整流板をもとどおりに取り付けてください。

7．電気配線

⚠ 警 告

分解・修理・改造禁止
● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止
● 交流 100 V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

取付注意
● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

アースを取り付ける
● アースを確実に取り付けること
誤作動の原因になります
また、故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

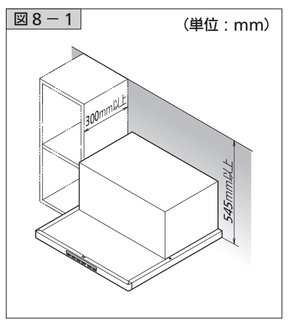
お願い

- 電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「9．試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。
- 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
- レンジフードの配線工事の際、壁スイッチを設置しないでください。

8．幕板の取り付け

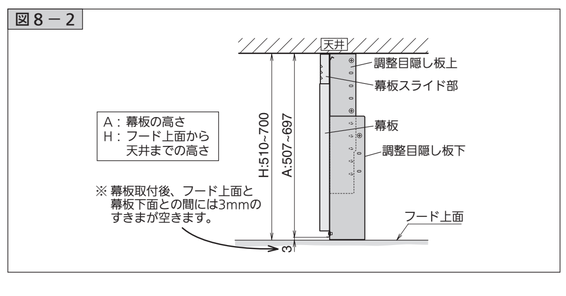
■ 取り付け前の寸法確認（図 8 － 1）
フード下面から天井までの高さが 545mm 以上、また壁からキャビネット本体までの奥行 300mm 以上あるかそれぞれ確認してください。
※奥行が 300mm 以下の場合は別売の横幕板をご使用ください。

図 8 － 1　（単位：mm）



■ 幕板取付高さ範囲（図 8 － 2）
次式により幕板の高さを算出し、幕板のスライド部を調節して高さを合わせます。
A（幕板の高さ）＝ H（フード上面から天井までの高さ）－ 3mm

図 8 － 2

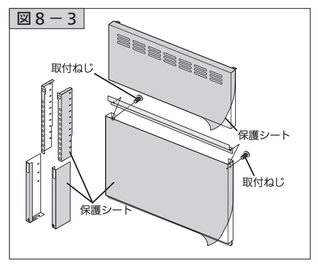


1 保護シートをはがします。（図 8 － 3）
幕板および調整目隠し板上・下に保護シートがついている場合は、保護シートをはがします。

お願い

保護シートをはがした後はキズが付きやすいので十分注意してください。

図 8 － 3

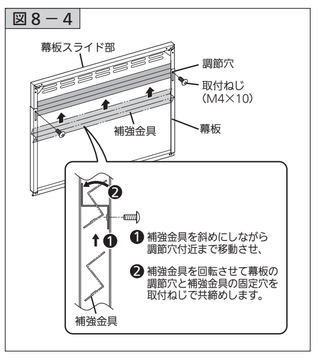


2 スライド部を固定します。（図 8 － 4）
※あらかじめ「幕板取付高さ範囲」（図 8 － 2）を参照して幕板の高さ調整をおこなってください（幕板をキズつけないよう十分ご注意ください）。

1）補強金具を幕板裏面に差し入れ、幕板の高さ調整穴付近まで移動させます。

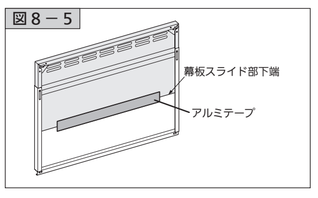
2）補強金具を回転させ、幕板の調整穴と補強金具の穴位置を合わせ、取付ねじ（M4 × 10）2 本で固定します。

図 8 － 4



3）幕板スライド部の下端を付属品のアルミテープで幕板裏面より固定します。（図 8 － 5）

図 8 － 5



3 調整目隠し板下（左・右）を取り付けます。（図 8 － 6）

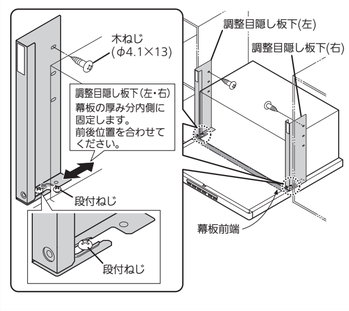
お願い

調整目隠し板上・下を取り付ける際は左右を間違えないようご注意ください。

1）フード左右の取付部にあらかじめ取り付けられている段付ねじに調整目隠し板下の下部にある切り欠きを差し込み、前後にスライドさせて位置を合わせます。

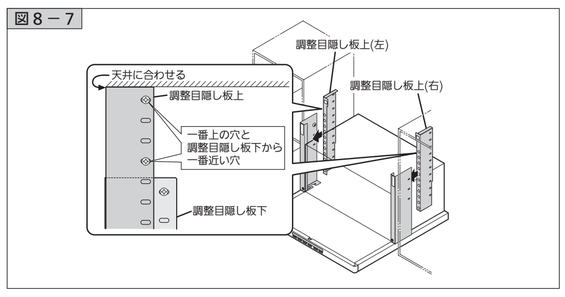
2）調整目隠し板下とキャビネットを付属品の木ねじ（φ4.1×13）で固定します。

図 8 － 6



4 調整目隠し板上（左・右）を取り付けます。（図 8 － 7）
調整目隠し板上を調整目隠し板下に差し込み、天井に合うよう位置を調整して木ねじ 2 本で固定します。
※木ねじ 2 本は、うち 1 本を調整目隠し板上にある一番上の穴、もう 1 本を調整目隠し板下に最も近い穴に取り付けてください。

図 8 － 7

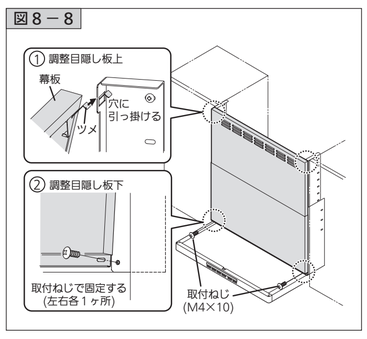


5 幕板を取り付けます。（図 8 － 8）

1）幕板裏面上部にある左右のツメを調整目隠し板上の穴に引っ掛けます。

2）幕板と調整目隠し板下のねじ穴を合わせ、付属品の取付ねじ（M4 × 10）2 本で固定します。

図 8 － 8



9．試運転

⚠ 注 意

接触禁止
● 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 必ず最終設置した状態で試運転してください。
■ 整流板が正しく取り付いていないと運転ができません。
整流板の取り付けについては取扱説明書をご覧ください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
■ 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。

10．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

〔販売元〕 **フジテックメンテナンス株式会社**
〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 － 9
お問い合わせ　042-753-1447（営業部 エアプロG）
ＦＡＸ　042-768-3383
ホームページ　http://www.airpro-pj.jp/
受付時間 9:00 ～ 17:45（土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く）

〔製造元〕 富士工業株式会社
〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 － 9
お客様ご相談窓口　0120-071-686
受付時間 9:00 ～ 18:00（土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く）